

| Minami Kyushu University Syllabus | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|--|---------|-----|---------|------|--------|--------|----------------|---|
| シラバス年度 | 2024年度 | 開講キャンパス | | 都城キャンパス | 開設学科 | | 環境園芸学科 | | |
| 科目名称 | 教育とICT活用 | | | | | 授業形態 | 講義 | | |
| 科目コード | 421220 | 単位数 | 1単位 | 配当学年 | 3 | 実務経験教員 | ○ | アクティブ ラーニング | ○ |
| 担当教員名 | 岩田 賢士 | | | | | | | ICT活 用 | ○ |
| 授業概要 | <p>36年間の高校教員の経験と大学における6年間の教員としての経験を生かし、将来、中学校・高等学校の生徒を教える教員に必要なICTに関わる授業への活用・校務への活用について授業を行う。授業内容としては、教育課程コアカリキュラムに掲載されてある目標、1)情報通信技術の活用と意義と理論の理解、2)情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進、3)生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導方法、に沿って実施する</p> | | | | | | | | |
| 関連する科目 | 特に、中等教科教育法(農業・理科)・教育の方法と技術・特別活動論・総合的な学習の時間の指導法・道徳等が考えられる | | | | | | | | |
| 授業の進め方 と方法 | <p>〇一斉授業・・・・・・・・各講義毎に授業資料を作成し、それを活用して授業を進め、必要に応じてディスカス。 〇ワークショップ・・・・・・・・課題を提示してグループ活動を行う。(グループ討議・発表・意見交換) 〇プレゼンテーション・・・・・・・・テーマに沿ったプレゼンテーションを作成し、それを発表する。 〇演習・・・・・・・・PCを活用して実践する”</p> | | | | | | | | |
| 授業計画 【第1回】 | 1. オリエンテーション 科目「教育とICT活用」の概要について | | | | | | | | |
| 授業計画 【第2回】 | 2. 情報リテラシーについて SNS等通信技術がもたらす功罪について | | | | | | | | |
| 授業計画 【第3回】 | 3. 科目「教育とICT活用」の意義 他科目との横断的活用について | | | | | | | | |
| 授業計画 【第4回】 | 4. ICTの学習上の活用について 授業におけるアプリケーションソフトの活用 | | | | | | | | |
| 授業計画 【第5回】 | 5. 校務におけるICT活用について 学校現場における授業以外のICT活用の実態と可能性 | | | | | | | | |
| 授業計画 【第6回】 | 6. オンライン授業について オンライン授業におけるアプリケーションソフトの活用と教材の作成 | | | | | | | | |
| 授業計画 【第7回】 | 7. ポートフォリオの概要 e-ポートフォリオについて | | | | | | | | |
| 授業計画 【第8回】 | 8. 講義のまとめ 授業内容をまとめた物をプレゼンテーションする | | | | | | | | |
| 授業の到達目標 | <p>”・情報リテラシーについて十分理解できる ・科目の目標を十分理解し、その意義を考えることができる。 ・PCの機器操作とアプリケーションソフトが活用できる。 ・オンライン授業ができるようになる。 ・プレゼンテーションによって自分の意見が述べられる。”</p> | | | | | | | | |
| 学位授与の方針 (DP)との関連 | 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) | | | | | | | | |
| 授業時間外学習【予習】 | <p><予習> ・講義の予習を行う。進んでPCの使い方を学修する。(10時間)</p> | | | | | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 授業時間外学習【復習】 | <p><復習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各講義の内容を補完するために講義中に配布した参考資料を使って復習を行う。(10時間) ・課題レポートの提出を求めるので、しっかりと調べ学習を行い自分の意見をまとめる。(10時間) <p>※この科目は、1単位なので講義時間以外に、自分で30時間以上の学習を行うこと。</p> |
| 課題に対するフィードバック | <ul style="list-style-type: none"> ○毎回講義後にレポートを出し、提出させる。そのレポートを採点し、返還する。 ○テストを実施し、それを返還する。 ○提出レポートに教員への要望・質問欄を作り、そこに書かれていることに回答する ○個人的な課題等については、時間外に個別対応する。 |
| 評価方法・基準 | <ol style="list-style-type: none"> 1 平常点・・・授業中の態度など取組状況 (30点) 2 レポート点・・・毎回提出レポートを提出 (30点) 3 小テスト点・・・テスト(40点:課題レポートを含む) <p>※出席は、4/5以上が望ましい。</p> |
| テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・各講義毎に講義資料を作成し、それを配付する。 |
| 参考書 | <p>参考資料 「内外教育」時事通信社 「産業と教育」実教出版株式会社など。 新学習指導要領(文部科学省)</p> |
| 備考 | |